**福岡市医師会方式脳血管障害地域連携パス**

1. **地域連携パスの基本は循環型、キーワードは脳卒中ではなく脳血管障害**

福岡市は160万人都市で、脳卒中急性期病院や専門診療所も多く、発作として倒れる前の「脳血管障害患者」や「脳血管障害ハイリスク患者」の段階から、かかりつけの医師と専門病院で緊密な医療連携が行われています。また、回復期リハビリ病棟の整備も全国平均を上回っています。

福岡市医師会方式では、①脳血管障害の予防を重視し、専門病院とかかりつけの医師による、双方向の情報共有による予防管理を基本に、②いったん脳卒中を発症した患者も脳卒中の各段階で多くの施設を循環しながらリハビリテーションと再発予防に力を入れて、地域全体で包括的に医療の質を高めていきます。

1. 双方向共有型（脳血管障害ハイリスク患者、生活が自立している軽症脳卒中患者）

連携パス

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（専門診療所を含む）

1. 多施設循環型（中等度以上の脳卒中、発作を発症した場合）

連携パス 連携パス

再発・急病

**●地域連携パスについて**



地域の連携医療の情報共有の方法は、多施設循環型と双方向共有型に大きく分けることが出来る。多施設循環型は、かかりつけの医師からスタートし、急性期、回復期を経由する脳卒中発作を生じた場合。一方、双方向共有型は、ハイリスク脳血管障害患者、軽症の脳卒中発作患者などの場合である。

　「地域連携パス」は、行政なども含めた地域全体と連携しながらの共通の治療管理であり、個々の病院同士のパスにとどまらない。「患者本位の地域連携パス」を作成し、福岡市医師会を中心に、地域全体の脳血管障害の連携医療を向上させていく必要がある。

６